

第3学年*組 保健体育科（体育分野）学習指導案

指導者 富田 和雄

1 単元名 球技（ソフトボール）

2 目 標

○状況に応じたバット操作と走塁、安定したボール操作による守備によって攻防を展開できるようにする。
(技能)

○フェアなプレーを大切にし、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たすことができる。 (態度)

○技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。 (知識、思考・判断)

3 指導に当たって（第3学年、男子*名、女子*名）

1. 2年時にソフトボールの授業を行っているのが、基本動作がうまくできない生徒が多い。本単元では、基本的技能の習得を継続目標に、相手の攻撃に合わせた守備と相手の投球に合わせた打撃ができるように指導したい。ベースボール型の基本である、「捕る・投げる・打つ」という技術を発展させて、ゲームに生かせる技術として身に付けさせたい。

4 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ●球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ●フェアなプレイを大切にしようとしている。 ●役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。 ●合意形成に貢献しようとしている。 ●互いに助け合い高め合おうとしている。 ●健康・安全を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。 ●チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。 ●作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けています。 ●球技を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見つけています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●攻防を展開するための状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などの動きができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●技術などの名称や行い方にについて、学習した具体例を挙げている。 ●球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ●課題解決の方法について、学習した具体例を挙げている。 ●審判の方法について、学習した具体例を挙げている。

学習活動に即した評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①球技の学習に主体的に取り組み、意欲的に活動できる。 ②フェアなプレーを大切にしようとしている。 ③互いの力を考えて、ポジションや打順を工夫して決めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①相手の打力を考えて、守備位置を決定できる。 ②味方に対して次に起こり得るプレーの指示・確認ができる。 ③ボールが飛ぶ方向を素早く判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①安定したバット操作でボールをとらえることができる。 ②飛んできた打球に対してタイミングよく捕球できる。 ③目標とする塁や味方に対して、狙った送球ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①タッチアップの動きを理解し、仲間の走者の動きに合わせた進塁や帰塁ができる。 ②仲間と協力してゲームの運営ができる。

5 指導と評価計画（12時間扱い）

	学習のねらい・活動	評価計画			
		関	思	技	知
はじめ 50分 × 1	<p>○授業の進め方についての説明</p> <p>1 オリエンテーション • 2年時に行った内容の復習と動きの確認（技能レベルの確認） • チーム分け • ルールやマナーの確認</p>	(1)			
な か 1 50 分 × 4	<p>ねらい①</p> <p>○打球のバウンドやコースに応じて、タイミングを合わせて捕球できる。 ○目標とする塁や味方に対して、狙った送球ができる。</p> <p>1 捕球練習① • チーム毎に2人組でゴロの捕球練習（正面、左右）</p> <p>2 捕球練習② • チーム毎に2人組でフライの捕球練習（正面、左右）</p> <p>3 送球練習① • 4人一組での中継練習 • 墓間（10m）ボール回し</p> <p>4 守備練習① • ノックによる技能確認テスト（捕球）</p>	(1)		(3)	(3) (2)
な か 2 50 分 × 3	<p>ねらい②</p> <p>○身体全体を使ってバットを振り抜くための身体の使い方ができる。 ○スピードの変化にタイミングを合わせてボールをとらえることができる。</p> <p>1 打撃練習① • 身体の正しい使い方の確認と2人一組でのティーバッティング • チーム毎に簡易の打撃練習</p> <p>2 打撃練習②、守備練習② • 緩急をつけた投球による打撃練習とその打球に対する守備練習</p> <p>3 打撃練習③ • ランナーを塁に置いての打撃練習（緩急をつけたボールを打つ）と同時に走塁練習（タッチアップの確認）</p>			(1)	(1) (1)
ま と め 50 分 × 4	<p>○仲間と協力してゲームの運営ができる。</p> <p>1 リーグ戦① 2 リーグ戦② 3 リーグ戦③ 4 リーグ戦④ • チーム、打順、守備位置は生徒達に考えて決めさせる。</p>	(2)	(3)	(1) (2)	(2) (1)

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

○目標とする墨や味方に対して、捕球しやすいボールを狙って送球できる。

(2) 展開 (4／12)

	学習内容・活動	指導上の留意点	評価の観点、方法
はじめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドを2周走る。 1 整列・挨拶をする。 2 準備運動・補強運動を行う。 <p>○ 目標とする墨や味方に対して、捕球しやすいボールを狙って送球できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠の確認、健康状態の確認。 ・肘のストレッチを十分に行うよう指示する。 	
なか 40分	<p>3 本時のねらいを知る。</p> <p>4 キャッチボール（2人組）</p> <p>← ← ← ①→ ②→ ③→ ④</p> <p>5 中継練習（4人組）</p> <p>←② ↓◇ ◇ / / ◇ ◇↑ ④→ ①</p> <p>・4人一組で縦に並び（間隔は8m）矢印のように送球を行う。場所をローテーションして練習を行った後、簡易ゲームを行う。（競争）負けたチームは補強運動を行う。</p> <p>6 墓間（10m）ボール回し</p> <p>③ ←② ↓◇ ◇ / / ◇ ◇↑ ④→ ①</p> <p>・墓間は正規よりも短く10mに設定する。番号順にスローリーし、逆回しも行う。（2ヶ所）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの時にどのように役立つ技術なのかを具体的に説明する。 <p>・踏み出す足を投げる相手に対してまっすぐに踏み出し、体重移動ができるか確認する。</p> <p>・ボールを離すポイントを確認して、良い位置（前）で離せるよう助言する。</p> <p>◇捕球後の足の使い方を実際に一緒にを行い、踏み出す足の体重移動ができるよう支援する。</p> <p>・①と④の生徒には、捕球する際にグラブ側の足を踏み出しながら捕球するよう促し、②と③の生徒には、投げやすい体制で捕球するよう促す。（送球が安定している生徒に対して、捕球から送球までの動きがスムーズになるようを半身の体制で捕球するよう助言する。）</p> <p>◇慌てずに良い体勢で捕球してから、しっかりと踏み込んで投げられるよう支援する。競争の際は、比較的簡単な①か④で行うよう指示する。</p> <p>・送球する側は、相手が送球しやすい位置を考えて投げる。捕球する側がどこに投げて欲しいのか目標を作つて声を出し、ボールを呼ぶように声掛けを行う。</p> <p>・送球が良くても悪くても全員で声を掛け合うよう促す。</p> <p>◇急がず丁寧に捕球と送球を行うよう助言し、上手くいかない動きへの支援をする。また、失敗しても良いことを伝え、上手くできたら賞賛の声掛けをこまめに行う。</p>	<p>(学習時の観察) ・指示を理解し、自ら考えて動けているか。</p> <p><運動の技能①> ・目標とする墨や味方に対して、狙った送球ができる。</p>
まとめ 5分	<p>7 後片付け</p> <p>8 整列・整理運動</p> <p>9 本時のまとめ</p> <p>10 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協力して全員で行うよう指示する。 ・整列時にけがの有無を確認して、整理運動を行う。 ・本時のねらいが達成できたか確認する。 	

◇は努力を要する状況にある生徒への手だて